



南大隅町町章



みんなの議会



2月20日～21日にかけて、佐多地区最大の伝統行事『御岬祭り』が行われ、大平洋岸の七浦約20kmを鉾・神輿・傘の順に壮大に練り歩き、五穀豊穡・商売繁盛を願いました。

12月定例会及び臨時会

- 12月定例会の主な議決内容 P 2 ～ P 4
- 議員が一般質問 P 4 ～ P11
- 委員会活動報告等 P11 ～ P12

● 発行 ●

南大隅町議会

● 編集 ●

議会だより編集委員会

〒893-2501

鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北226

電話 0994-24-3111

(内線332番)

第 19 号

平成22年3月

12月定例会は佐多支所議場において、8日から22日までの15日間の会期で開催され、平成20年度各会計歳入歳出決算認定9件や平成21年度各会計補正予算及び条例改正等の議案17件、発議1件について審議され、原案どおり可決されました。

平成21年度 補正予算(12月)

会計区分	補正額	補正後の総額	主な補正内容
一般会計 (補正第5号)	2億2,158万0千円	67億6,640万9千円	・経済危機対策事業等や人事院勧告に伴う所要の調整
一般会計 (補正第6号)	1,800万1千円	67億8,441万0千円	・ねじめ漁協製氷機械の更新に伴う補助金充当や交付税措置
国保特会 (補正第3号)	220万1千円	17億7,172万2千円	・出産育児一時金の増額と医療費適正化特別対策事業の予算組み替え
簡易水道特会 (補正第2号)	▲1,090万1千円	5億5,068万0千円	・地方債の借り入れ利子額確定に伴う減額等
診療所特会 (補正第2号)	▲498万7千円	7,247万4千円	・横別府・辺塚診療所の人件費の減額等
介護保険事業特会 (保険事業勘定) (補正第2号)	▲196万0千円	11億4,173万4千円	・執行見込みに伴う保険給付費と地域支援事業費の予算調整等
介護保険事業特会 (サービス事業勘定) (補正第1号)	▲80万1千円	1,202万7千円	・介護予防マネジメント委託件数の減や給与改定による減等

十二月議会で議決した主な議案内容



▼平成20年度の各会計決算認定9件については、9月定例会において、決算審査特別委員会(委員長 中村雅之 他6名)に付託し、閉会中の継続審査としていましたが、今定例会において、委員長より審査の経過及び結果について報告がなされ、全て認定しました。尚、認定にあたっては、次のような意見が付されましたので抜粋して掲載いたします。

平成20年度決算認定

① 収入未済額について、特に町税は前年度に對し大幅に増加している。自主財源の確保、負担の公平性の観点からも、より一層の徴収努力を推進されたい。

② 住宅使用料並びに土地建物貸付収入の未済額が昨年度より増加している。納入計画書を徴するなど対策を講じ、未納者への指導を行い、収入確保に特段の努力をされたい。

③ 保育料の滞納が極端に増加している。所得に応じた負担額であり、安易な不能欠損処分をすることなく、時効中断の措置を講ずるなど、会員一丸となって徴収努力されたい。

④ 耕作放棄地の対策について、平成23年度までの耕作放棄地再生利用緊急対策事業を活用し、荒廃地・遊休地が発生

しないよう取り組まれない。

⑤ 女性会の活動は、町の活性化に最大限必要であり大きな力がある。今後も体制整備に知恵を絞り努力されたい。

⑥ 国民健康保険税の収入率は前年度比で減である。今後も厳しい財政運営が予想されることから、国保税の確保、また、健康意識の高揚を図り、疾病の早期発見、早期治療を目指し、医療費の抑制対策に努められたい。

⑦ 水道料の収入未済額が前年度比で増加している。水道料は性質からして、受益者負担が当然であり、滞納解消に向けて引き続き努力されたい。

議案

▼乳幼児医療費助成条例の一部改正について

医療費助成の対象を『6歳到達の月末まで』から『小学校就学前まで』に改めるもので、22年1月診療分から適用するものです。

▼学校給食センター条例の一部改正について

町内2箇所の学校給食センターを佐多学校給食センターへ統合するもので、名称は『南大隅町立学校給食センター』に改めるものです。

▼財産（堆肥散布車）の取得について

指名競争入札により、キヤタピラー九州株（始良郡加治木町）と954万8,618円で契約締結するものです。

▼財産（町内小・中学校パソコン）の取得について

教師用パソコン104台、パソコン教室用98台を購入しようとするもので、指名競争入札により、南日本マイクロコンピュータ株（鹿児島市中町）と5,512万5千円で契約締結するものです。

▼町道の路線認定について

二級河川雄川右岸堤防の管理用道路を、県と協議の上、町水防倉庫付近の国道269号接続から雄川橋接続までの延長1,300Mを町道宮原下町線として認定するものです。

▼鹿児島県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び鹿児島県市町村総合事務組合規約の変更について

市町村合併による始良市の設置等に伴うものです。

▼鹿児島県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少について

市町村合併による始良市の設置等に伴うものです。



▼課設置条例の一部改正について

企画課と商工観光課を再編して『企画振興課』とし、『財産運用課』を新設し、佐多支所を大きく3グループに分け、効率的な組織体制を確立するものです。

▼請負契約(間泊漁港地域水産物供給基盤整備事業2工区)の締結について

指名競争入札により、新光建設(佐多伊座敷)と1億3,755万円で契約締結するものです。

発議

▼電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書(案)について

平成22年度末をもって交付期限を迎える電源立地

地域対策交付金の水力発電施設周辺地域交付金相当部分について、今後必要不可欠な財源であることから、その交付金の交付期間の延長に向け、関係機関へ意見書を提出するものであります。

※意見書については、政府関係機関へ提出することに決定しました。

2/22(第1回)臨時会

議案

▼財産(消防ポンプ自動車)の取得について

消防ポンプ自動車1台購入について、(株)鹿児島消防防災と1,711万962円で契約

一般質問

12月議会では、8議員より一般質問がありました。その要旨は次のとおりです。



川原 拓郎 議員

地域活性化経済危機対策臨時交付金について

【川原】計画された事業の執行は、どの程度進んでいるのか伺う。

は60・9%となっており、残りの事業についても今月中の執行を推進しているところではあります。

【川原】この交付金事業では、かなりの経済効果が見込まれるが、どれぐらいの事業を町内業者で執行できたか伺う。

【町長】予算現計で4億1,200万円程度の事業規模で、町内業者が約67%、町外業者が約33%であります。執行にあたりましては、町内業者を第一に考えていますが、町内事業者もしくはそういう事業者がない場合に限り、町外発注という経緯を取っています。今後の執行残に関しても、町内業者を優先的に執行していくつもりです。

【川原】執行残については、どのような事業を計画されているか伺う。

【町長】当初2,400万

円程度の一般財源を計上し執行残にも臨機応変に対応できる予定でしたが、執行の中で残が生じ、この12月に補正計上したところではあります。今回の補正では、事業完了となったものは清算し、未執行のものには決算見込みを元に、安心安全な暮らしの実現、情報通信基盤の整備を図る目的で消防自動車等の購入及び学校施設の改修や公共施設等のデジタルテレビの購入に係る経費等2,600万円程度を追加しました。

【川原】デジタルテレビの購入について、町内業者だと思いが、発注のやり方として何回も同じ業者が指名に入るか伺う。

【副町長】入札に関しては、基本的に町内業者を前提に行っていますが、今回のデジタルテレビについても、町内で対応できる業者をピックアップし、できるだけ公平に一業者

が独占する事がないような形で、入札を執行したところです。

【川原】新型インフルエンザ対策で、ワクチンの接種補助は考えられないか伺う。

【町長】 交付金の性格からして、インフルエンザ対策としては『機材等の整備』が主な目的になると認識しています。よって、今回の交付金での対応は考えておりません。尚、現状としては全住民を対象に一律1回千円の補助を設定しています。

佐多支所業務について

【川原】合併協議会において、合併5年後は本庁方式を採用していくとあるが、支所の業務・活用策をどのように考えているか伺う。

【町長】 行政改革委員会並びに同本部会において

議論を重ね、今回、本庁組織と共に再編を行う考えです。基本的には支所の課を廃止し、3つのグループに分けたいと考えています。当然住民への対応が滞りなく行える組織にしたいと考えています。又、施設の活用策ですが、再編することで若干の職員の縮小と共に施設の空きが生じます。施設の有効活用且つ住民の利便を考える時、住民との係わりのある施設の一元化が望ましいのではなにかと考えています。社会福祉協議会や商工会、農業共済事務所の集約はできないものか検討しているところです。

行財政改革について

【川原】効率的な公共施設の利用として、佐多地区の公民館譲渡を検討されているようだが、その後の経過、又、その譲渡方法はどうしているか伺う。



佐多地区（浜下コミュニティセンター）

【教育長】 現在、佐多地区には、コミュニティセンターや集会施設として町が建設し管理している施設が28箇所あります。建物は、自治会と管理委託の契約をしています。建物保険・電気・水道等の維持管理費は、自治会が負担しており、今後の施設管理及び譲渡について、関係課で協議しているところです。今後、自治会と協議を重ね、支障がなければ譲渡に向けて協議を進めていきたいと考えています。

自治会再編問題について



水谷俊一議員

【水谷】町内109自治会の中には、限界集落もあり、自治会運営に支障を来している現状でもある。一刻も早い再編が必要であると考えるが、今後どのような方法で再編を進めていく考えか伺う。

【町長】 少数世帯の自治会では、役員選出や各種行事等の実施に支障が出てきており、自治会そのものの存続が危ぶまれる状況にあると認識しています。しかし、長い歴史において培われた地域の歴史や風土の保存、自治会所有財産や地理的な問題、あるいは世代間の温度差など様々な要因が再

編の壁になっています。国は50〜80世帯が自治会活動の運営しやすい世帯数としています。本町は109自治会中87自治会が50世帯以下であり、内30世帯未満の自治会が55あります。地域によっては自治会再編課題を優先して欲しいという要望等もあり、これまで再編に向けて、説明要望のあった自治会へは出向いて説明をしています。また、各自治会毎の話し合い活動や合併に係る研修等については、一自治会当たり5万円の補助制度もありますが、今年度の申請は出てきていません。いずれにしても、世帯数減少を避けられない状況の中、地域住民の理解が得られ、概ね全世帯の同意が絶対条件であろうと考えています。行政主導による強制合併ではなく、それぞれの地域に合った手法で地域主導・行政サポートの形で今後も再編を進めていきたいと考えています。

プレミアム付商品券について

【水谷】8月3日にプレミアム付商品券が販売され、短期間で完売したと聞くが、町内小売店への効果や町民の反響を伺う。

【町長】本事業は、プレミアム付商品券発行により、個人消費を伸ばし、町内商工業の活性化を図る目的で商工会が実施した事業です。この事業に対して、町がプレミアム100%の320万円と事業費的経費80%の80万円、計400万円を補助しています。県内24市町でも同事業が実施、計画され、75%に当たる団体がプレミアム分は10%でした。本町は20%のプレミアムでしたので、その効果もあり販売開始から約1ヶ月で完売したものだと思っています。換金状況は、商品券発行総額1,920万円の内、11月26日現在で約92%の1,769万6千円という状況で

す。また、対象事業者は根占地区192、佐多地区76の計268事業所です。商品券が実際に使用された事業者数は73事業所で、全体の27%に留まっています。町内小売店の効果としては、例年同時期の売上額との比較はできませんので、正確な数字での報告はできませんが、事業者から役場及び商工会への苦情等はありません。尚、町民の方からは商品券について、

完売になった9月9日以降、現在でも商工会へ問い合わせがあるそうです。商工会員である全事業者に等しく効果は出ていないようですが、消費者の需要の問題等もありますので、許容せざるを得ないと考えています。短期間で消費拡大と町内商工業の活性化を図る目的で実施した当事業は、完売であり、換金率も現時点で92%という状況ですので、補助事業としての効果は、十分にあったと考えています。

【水谷】本年と同額とまでは言わないが、来年度以降もこの事業を継続していく考えはないか伺う。

【町長】今回この事業は、経済緊急対策事業の中で実施されました。非常に効果は絶大であるわけですが、来年度予算編成の中で、一般財源から特に抽出してということとは、現時点では考えにくいのではないかと思います。

農商工連携推進会議について

【水谷】経済基盤の構築の一つとして揚げられた農商工連携の具体策は、又、農商工連携推進会議の状況を伺う。

【町長】町としての具体的な施策としては、行政改革の一つとして、根占給食センターを来年4月より、佐多給食センターと統合し運営する方向で

計画していますので、その後の根占給食センターの活用と合わせて、町内で生産される農林水産物を利用した加工品や新たな特産品作りを目指し、農林漁業者の収益拡大を図れないものかとの構想の中で、仮称「食材加工センター」の整備を検討中です。また、農商工連携推進会議の状況としては、10月26日に推進会議を開催し、会議設置の説明に加えて、(仮称)「食材加工センター」の整備構想について、ご意見等を拝聴したところです。尚、推進会議は、町内の農林漁業関係団体の代表者を委員として構成しています。



根占学校給食センター

【持留】町長として初の本格的な予算編成と思うが、主な事業として、どのような施策を考えているか伺う。

当初予算編成について



持留 秋男 議員

【町長】就任以来、「人口減少に歯止めをかける」を町政推進の目標として取り組んでおります。我が町の振興を図る上で、やはり一次産業抜きでは考えられないと思っています。現在、地域雇用創造推進事業により、農林水産品を活用した商品開発・販路拡大戦略等を推進し、起業・就業機会の増に繋がるよう努めています。また、農商工連携を組織化し、関係機関との連携を密にし、この

ことが将来の定住促進になるよう推進するところ
です。具体策としては、
給食センターの統合に伴
う根占地区の施設を利用
した加工施設の整備を検
討しています。また、憩
いの家等を選択肢の一つ
と考え、物産館を併設し
た、要するに南大隅町を
発信する施設の整備を検
討しています。国の方向
付けが定まらない中、事
業推進の柱を「農商工連
携」「定住促進」「健康
づくり」と位置付け、各
種事業に取り組み、町民
の幸せの実感できる町づ
くり而努力して参ります。

ディアはないかというよ
うなもののアンケート調
査を行っております。ま
た、住民の意見を聞くこ
うの部分では、12月中に
一応今考えておりますが、
役場本庁・支所に、目安
箱なるものを設置し、住
民・職員問わず、一応記
名方式でご意見を賜りた
いと思っています。その
中で汲み上げられるもの
は汲み上げていきたいと
考えています。

地域経営推進事業 について

【持留 佐多地区の通称「石蔵市」の利用状況を伺う。

【持留 職員からもアンケ
ート等で意見を集約する
考えはないか伺う。

【町長 職員の意見を聞く、
もう少し拡大解釈すれば、
住民の意見も聞くという
部分になるかと思いま
す。まず就任当初全職員
に対し、町を活性化する
ために、何か自分のアイ

【町長】 10月8日から毎
週金曜日、現在まで9回
開催しています。回を重
ねる毎に出荷者も増え、
現在では25名の方で農産
物・海産物・花卉に各種
加工品等63品目の品揃え
になっています。運営は、
加工に始まり集出荷・販
売・売上げ精算の全てを



佐多地区 石蔵市(さたでい倶楽部)

果もあり、鹿屋市等から
も来客があります。今後
も需要希望の多い品目
については、更なる特産品
としての位置付けでPR
等にも努めたいと考えて
います。

【持留】来年4月以降も「農
商工連携事業」の二環とし
て継続して実施する考え
はないか伺う。

【町長】 石蔵市の来客の方々
より、週1回でも良いと
の要望等も多数あります。
石蔵市の中間検討会を開
催し、その中で4月以降
も続けていこうと出荷者
全員で確認もされていま
す。実証実験終了後も自
立自活でのスムーズな運
営を支援していきたいと
考えています。

検診事業対策に ついて

【持留 町の二部助成で、健
康増進事業の特定検診等
により早期発見に非常に

喜ばれているが、今後、
脳ドッグ検診への助成は考
えないか伺う。

【町長】 新年度より町民
を対象に希望者を募り、
脳ドッグ検診を実施する
ことにより、早期発見・
早期治療・医療費の抑制
に繋がるもの判断し、半
額助成を実施したいと考
えています。



牧 勝 議員

定住化促進について

【牧 官民一体となった定住
の推進は考えられないか
伺う。

【町長】 本町では、平成
19年度制定の「移住者住
宅建築等補助金交付制度」
を5年間の時限立法とし

て、24年3月31日までの期間で運用しており、これまで4件の方が制度を活用しています。定住化促進については、重要課題として今後も引き続き現制度の拡充も含め、町内に有す遊休公共用地の利活用も視野に入れ、魅力ある町外からの移住者対策として、官民一体となり地域全体が盛り上がるような「地域配慮型の定住化促進対策事業」を具体化構築していきま

【町長】 定住促進により人口が増え或いは住宅が

【牧東串良町では、20年間居住すれば土地は無償譲渡、20年間は固定資産税も不要、譲渡の際の贈与税もかからないというような非常に優遇された制度をとられており、町民税の増或いは自治会も活性化してきている。本町としては、今後どのように展開していくか伺う。

建つことは、非常に町内の経済効果としても有意義だと考えています。来年度のメインテーマに掲げている定住化促進の中では、非常に南大隅町として、他町に負けない条件を出して行きたいと考えていますし、その条件としても、住宅建築における町内事業者活用というような意味で、条件等を盛り込んでいきたいと考えています。



前田 信親 議員

観光振興について

【前田 町政座談会の中で観光振興について、どのような意見・要望があったか伺う。

【町長】 7月から10月まで20地区で座談会を実施

しました。観光振興については『新幹線全線開通に伴う佐多岬観光策はどうか』『佐多岬に写真スポットの設置はどうか』『佐多岬灯台の建設者であるイギリス人の銅像を建てて全国にPRできないか』等々、6地区で意見が出されました。

【前田 観光促進についての基本的な考えを伺う。

【町長】 平成18年3月に取りまとめられた町の総合振興計画に基づいて、観光推進を図って参りました。現在、平成22年度以降5年間の基本計画を定める準備を進めています

【町長】 農林漁業等の体験型観光の推進を核として、豊かな自然や特産品、魅力ある歴史を活かした観光や隣接する関係市町との連携による周遊ルートの整備、観光案内人の育成や農林漁業体験ガイドインストラクター等の人材育成を推進していき

いと考えています。また、本町最大の観光資源である佐多岬はご存知のような状況であり、県や各関係機関と協議中でありますが、佐多岬問題解決後には、地元の方々のご意見を頂きながら佐多岬観光に傾注したいと考えています。

【前田 佐多岬観光について、県や企業等、各関係機関との交渉は現在どのような状況であるのか。また今後の見通しについて伺う。

【町長】 交渉状況としては、平成19年4月25日に本町といわさきコーポレーションとの覚書の約定について、先般の9月議会において承認頂き、土地等の関係については、全て完結しております。今後は、いわさきコーポレーション所有の土地、関連施設の取り扱い等について県と協議中となっておりますが、協議経過等について、進展した形での公

式な報告は未だないところですが、いづれにしても観光振興については、県・いわさきコーポレーション・本町の3者での協議が必要不可欠であり、本町発展のための重要課題と認識しております。

【前田 新聞や報道で、展望公園事業については近く県に展望台などの寄付を申し出る考えをいわさきコーポレーションが示されましたが、今後、積極的な働きかけが望まれるが、どのような考えか伺う。



【町長】 県との協議の中で随時この岬問題に関しては、強く推進していくつもりですし、私も佐多岬観光あつての観光地というふうな位置づけしておりますので、解決に向けて頑張っていきたいと思っています。

町道佐多岬ロードパーク線の管理について

【前田】 常に観光道路としての主観をもって維持管理に努める必要があるが、ロードパーク線の管理の現状について伺う。

【町長】 町道佐多岬ロードパーク線は、平成19年4月26日に第1ゲートから第2ゲートまで約6キロメートルの区間が町道に認定され、これまで、センターラインや路側帯の区画線、一部路面補修等の改良工事を実施しま

した。通常の道路管理については、除草清掃や落石除去等の小規模案件は、商工観光課において対応し、工事等の大規模案件は、建設課で対応しています。佐多岬ロードパーク線は、観光道路でもあり、利用者の安全・快適なドライブを確保するため、今後も適正な維持管理に努めていきます。

【前田】 舗装に亀裂が多く平坦性にも随分欠けている。ロードパーク線の県への移管時期について伺う。

【町長】 大隅地域振興局に問い合わせたところ、県道として必要な道路敷地部分の測量委託を実施中とのことですが、現段階で明確に移管時期を示すことは困難との見解であります。尚、県道佐多岬公園線の道路改良工事も本年度に予定されており、精力的に手続きは押し進めていきたいとのこと。



竹之内勝男議員

農業振興について

【竹之内】 野菜類の作付状況について、見込みも含めて昨年比とどうか伺う。

【町長】 馬鈴薯・インゲン・ピーマン・ツワブキの4つを振興作物と位置づけ、農家の所得・経営向上に向け、営農指導並びに推進を図っています。作付け状況としては、馬鈴薯は平成21年産とほぼ同様の作付け面積が実施されるようです。次に、インゲン並びにピーマンのビニールハウスを主体とした施設栽培については、インゲンが2.5ヘクタール、ピーマンが5ヘクタールの作付け面積で、インゲンの露地栽培は、約40ヘクタールの作付けがある

と推測しています。ツワブキは、特に佐多地区で定着しており、作付け戸数・面積共に横ばいであると考えています。

【竹之内】 生産性の高い作物について、重点的な営農指導をする考えはないか伺う。

【町長】 営農指導員により、新ごぼうや加工用甘しょ

の生産を推進しています。また、昨年度はハウスネギの栽培に2戸の農家が取り組み、生育・販売とも良好に推移し、本年度も引き続き取り組んでいます。主要作物である春



ハウスネギ栽培

バレイショやインゲン等は本町の立地条件を活かし、適地適作での生産が継続されています。それらを踏まえ、主要作物については、より生産性を高める技術の励行を基本として、生産振興を図りながら、本町の立地条件に適合した作物の選抜・検討を行い、農家の所得向上に努めていきます。

【竹之内】 来年度以降の降灰対策事業の取り組みについて伺う。

【町長】 平成22年度は、暖房インゲンに取り組み農家4戸に、降灰対策事業を導入して、ビニールハウスを60アールほど整備する計画があります。尚、平成23年度以降については、現在のところ具体的な計画はありませんが、引き続き、防災営農による施設整備を推進していきたいと考えています。

【竹之内】雄川の捨て土の活用を活かすべきと思うが、何か対策は考えられないか伺う。

【町長】雄川の掘削土砂

については、公共事業による有効利用の観点から、四半期毎に開催される大隅地区建設副産物連絡会議において、他の公共事業への流用についての調整が行われています。今後、町内における圃場整備など、公共事業により土砂の受け入れが可能な箇所があれば、当連絡会議において調整を行っていききたいとの事であります。



大内田憲治議員

重点施策について

【大内田】「安心・安全な町づくり」「経済の自立」「文

化の薰り高い町づくり」の三つの柱を挙げているが、その具体的な施策は、又当初予算への反映はどのようになっているか伺う。

【町長】まずは農商工連

携を柱に、現在進めている地域雇用創造推進事業と絡めて着実な推進を図るものであります。本町は一次産業抜きには考えられない条件の町であり、多くの産物もありますので、開発・掘り起こし等も平行して進め活性化策を模索していきたいと思えます。大きな3つの柱を立てていますが、新規・継続を含め、今後、査定段階で検討したいと思えます。事業によっては、補助の絡むもの、町民或いは生産者との調整など、クリアしなければならぬい事案が多数あります。当初予算への反映の具体策については、今月から始める査定を通して3つの柱を軸に編成したいと思えます。

災害対策について

【大内田】緊急時の初動体制として機能を発揮するため、庁舎に近接して職員住宅を確保する考えはないか伺う。

【町長】現体制として、

台風に関しては正確な予報が受けられ地域毎の配備を事前に確立しています。また、状況に応じて相互支援体制も整備されており、且つ突発的な災害に関しても対応できる体制です。また、気象情報システムの整備により風速・風量・気温・気圧等瞬時の情報が得られ、体制の整備が図られています。また、一箇所に一点集中より、佐多・根占地区に職員等が点在するのが好ましい状況かと思えます。よって、住宅確保の必要性は現段階では考えていません。

役場職員の町内居住対策について

【大内田】町長は人口減に歯止めをかけるため、定住促進等も図られてる。町民税或いは消費面など、経済的にも町に与える影響は大きいものと思うが、現在、町外居住の職員は何人在るか。それから、災害発生時の業務への支障はないか。また、町内居住について対策を行っているか伺う。

【町長】現在154名の

職員の内、町外居住者は12名です。災害発生時の業務への支障は、現在まで大きな支障を感じたことはありませんが、一人でも多くの職員が町内に居住し、業務に従事できる体制を確立することはいうまでもありません。また、冷え切っている経済環境の中で、町としても各種行事との連携を模索しながら経済活性化を目指していますが、災害

に関わらず業務上からも事業推進の立場上、町内居住を推奨しているところであります。



平原 熊次 議員

森林資源の活用について

【平原】森林資源を活用した本町の活性化を思うが、町内人工林の伐採適齢期の原木の状況及び活用について伺う。

【町長】町内の人工林は、民有林・町有林合わせて約4,079ヘクタールあり、杉が2,958ヘクタール、ヒノキが509ヘクタールあります。伐採適齢期が杉35年、ヒノキ40年ですので、1,176ヘクタールの林分が

伐採適齢期にあります。ここ数年、木材の価格が安いため利用間伐を行っています。間伐材は、価格等勘案して、県森連高山共販所、ベネフィット森林資源協同組合に供出しております。

【平原】花之木家畜市場跡地の旧(株)南大隅国産材加工センターの設立から現在までの経緯を伺う。

【町長】旧4町及び町内外の企業や個人が出資して、平成3年4月、資本金額2億7,550万円(株)南大隅国産材加工センターを設立しました。その後、平成15年8月の株主総会において同社の解散を決議し、同9月に解散、平成16年1月に精算が終了、同1月28日登記閉鎖となっています。変わりまして、平成15年4月ベネフィット森林資源協同組合から旧4町が共有する同跡地の借地願いがあり、平成15年6月

議会の議決をもって、同跡地の町有土地無償貸付契約が締結されています。建物・機械類については、旧(株)南大隅国産材加工センターの所有物であり、同時に譲渡されたものとして解しています。その後、平成17年4月、平成20年4月に契約更新がなされ現在に至っています。

高放射性廃棄物処分場について

【平原】この問題は、前町長時代にもマスコミを通じて、県内外に広く報道され、また、6月議会でも質問されたわけですが、12月6日の南日本新聞に住民団体による陳情計画の記事も掲載され、また、この数ヶ月間、街宣活動によって町民の間にも不安が広がりが注目されています。高放射性廃棄物処分場の是非について伺う。

【町長】2年前、議会と共に処分場についての勉強会を開いた経緯があるようですが、新聞・テレビ等で処分場の必要性、また適地としての地理的・地形的条件も制約があるというふう認識しています。6日付の新聞で報道がありましたように、町づくり推進協議会が町の活性化策の選択肢の一つとして処分場はどうだろうかという議論になったようです。勉強会を通して議論を深めることのようにですが、町としては現段階では白紙の状態です。

【平原】本当にこれは大きな問題だと思っています。今後、冷静な気持ちになって取り組んで頂きたい。

一般質問については、要旨のみ掲載しています。会議の内容については、閲覧もできます。

閉会中の委員会活動

▼総務常任委員会

10月16日に、大崎町役場と東串良町役場において、定住促進等住宅調査を実施しました。



東串良町役場

▼経済建設常任委員会

10月15日に、振興作物等調査を実施し、水枝谷団地の新ゴボウや加工用甘藷、大中尾・折山地区の耕作放棄地、入丸団地のマンゴーや不知火(デコポン)を視察調査しました。



南さつま市役所

▼文教厚生常任委員会

11月17日から18日にかけて、小学校統合等調査を実施し、南さつま市坊津地区の小・中学校再編及び鹿屋市輝北地区の学校統廃合の取り組みなどについて調査しました。



佐多・入丸団地



傍聴したよ！
《大泊小5・6年》



霧島市役所

▼議会運営委員会

10月13日から14日に、議会情報発信等調査を実施し、さつま町や阿久根市、霧島市の議会事務局を訪問し、議会中継や議事録作成・公開等の手法について調査しました。

【5年 池田 大樹君

今日初めて傍聴席に入りました。入った瞬間たくさんの方がいたのびっくりました。席に座ってから話を聞いているとばれいしよや米などの野菜の話でちよつと難しかったです。休憩の時に議会議室に入りました。床は赤色でいすなども前後に動いてびっくりました。

【5年 田中 美帆さん

議会ですんだことは、まず、どんな意味でどんな質問を発表するかを考えていることや、席が決まっています。後、議長がいるということが分かりました。わたしは真剣に取り組んでまちづくりをしているんだなと思いました。

【5年 上籠 岬君

初めて議会を見てテレビで見ているよりも迫力満点で自分まで緊張感がありました。少しくらいは分かったけど言葉がと

ても難しかったです。そしてうれしかったことが二つありました。議会議室に入って議長の椅子に座ったことと森田町長さんと一緒に写真をとったことです。

【6年 上籠 正志君

初めて議会を見ていつも学校にいる時の空気よりもとても威圧感がありました。そして今日は大泊のロードパークやばれいしよやスナックエンドウなど町に関係のある物が発言されていました。あまり言葉の意味が分からなかったけれどとても貴重な体験ができてよかったです。

【6年 山野 大吾君

今日初めて傍聴席に入りました。入った瞬間重い空気が漂いみなさんがすごく真剣に発表などをしていました。「10分休憩します」と議長さんが言って、議会にも休憩があるんだなと思いました。

議会を傍聴してみませんか！

議会は、年に4回(3月・6月・9月・12月)の定例会と必要に応じて開かれる臨時会があります。傍聴にはお気軽にお越しください。日程等詳しい事は、議会事務局(TEL24-3111)までお問い合わせください。



佐多岬マラソン大会で、県内外からの参加者を歓迎しました。

議員の派遣について

▼県議長会議員研修会

(1月26日 鹿児島市)

▼行革特別委員会調査

(2月)

閉会中の継続審査並びに調査申し出について

▼総務常任委員会

(防災対策等調査について)

▼文教厚生委員会

(健康維持増進事業等調査について)

▼経済建設委員会

(地産加工販売事業等調査について)

▼議会運営委員長

(次期議会の会期日程等の議会運営に関する事項及び議長の諮問に関する事項について)